

## 主な演奏者のプロフィール

フレディ・ハバート (tp) 1938～2008 70 歳没

70 年代から炎のような、そしてメロディックな奏法と驚異的なテクニックによって、リーディング tp としての全盛期を迎えた。ジャズ・メッセンジャーズにおける演奏によって有名になった。

スタン・ゲッツ (ts) 1927～2008 64 歳没

40 年代頃からすでに B グッドマンや G ドーシー W ハーマンの楽団で活躍クールなウオーム・トーンが特色。1963 年 J ジルベルト、AC ジョビンと共にボサノバ「ゲッツ/ジルベルト」を録音。

ジェリー・マリガン (bs) 1927～1995 68 歳没

作曲編曲家でもありジャズ界では数少ない b サックス奏者、ピアニストとしても知られた。

ミルト・ジャクソン (vib) 1923～1999 76 歳没

エリントンやベイシーを聴き、ジャズに興味を持つ。特に L ハンプトンの影響を受ける。D ガレスビーに招かれ、NY へ行き彼のバンドでプレイする。その後はモンク、パーカー、R ブラウンらと共演を重ねる。1951 年にカルテットを J ルイス (p)、P ヒース (b) K クラーク (d s) と結成。翌年にモダン・ジャズ・カルテット (M J Q) と名を変える。1974 年 7 月 M J Q を解散するが、1981 年 11 月武道館で再結成する。

レイ・ブラウン (b) 1926～2002 77 歳没

1946 年は D ガレスビーのバンドに加入、この時期 E ジェラルドと結婚したが 1952 年に離婚。また O ピーターソン・トリオで活躍、S ロリンズの『ウェイ・アウト・ウエスト』や L. A. フォアで一連のアルバムを録音、多くのベーシストの尊敬を集める巨人である。

アート・ブレイキー (ds) 1926～2002 77 歳没

1958 年 ts の B ゴルソンとの出会い彼の作編曲のもと、tp の L モーガン、p の B ティモンズ等を迎えたこの時期は、「モーニン」はティモンズ作曲、「ブルース・マーチ」はゴルソン作曲などの新たなオリジナル曲が出来た。人種差別のない日本のファンが大好きで度々来日した。

ライオネル・ハンプトン (vib) 1908～2002 94 歳没

ドラマーとピアノでキャリアを始めた。ヴァイブとの出会いは 1930 年に R アームストロングの録音に参加した時、スタジオに置いてあったヴィブを弾いてみるようにアームストロングから言われたのがきっかけという。1936 年ヴィブ奏者として B グッドマンのバンドに参加する。人種の壁が厚かった時代に白人の人気バンドに黒人のミュージシャンが参加したという点でも画期的な出来事であった。その後もハンプトンは自身のリーダーバンドを率いて精力的に活動。

マルタ (丸田良昭) (ss ts as cl) 1949～

東京芸大学音楽卒、1976 年卒バークリー音楽大学卒、1979 年から L ハンプトン楽団のコンサートマスターを経て、1983 年にアルバム『MALTA』で日本デビュー。2013 年～2018 年には、母校である東京藝大の「ジャズ in 藝大」音楽監督及び客員教授に就任。全国のアマチュア吹奏楽団・ビッグバンドのクリニックやジョイントコンサートの共演など文化教育面に力を注いでいる。